

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都荒川区南千住 8 - 2 - 1
園名	荒川区立南千住第二幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

本園の地域及び園庭は自然が充実し、植栽も豊かである。一方で園児の立ち入らない場所や使用していない箇所がある。工夫を図り、より一層自然への興味関心を高めたい。

2. 活動スケジュール

○雨の中を散歩する

・水たまり、落ち葉、実など雨の中の発見を楽しむ

→当初、雨の予報であったが、当日は雨があがったため、雨上がりの散歩となった

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

- ・拾ったものを並べたり置いたりする画用紙
- ・拾ったものを持ち帰る袋（個人ではなく学級で1袋）
- ・画用紙（八つ切りまたはA3の大きさのもの 黒）や包み紙

【環境の構成】

- ・見つけたものを袋に入れて持ち帰り、並べる場所（たらい・くすんだ色のタオル・ベンチ）をつくり、振り返りができるようにする
- ・紙を用意し、拾ったものを並べたり配置したりできるようにする。

4．探究活動の実践

< 活動の内容 >

- 年少組「あめあがりのさんぽ」
 - ・園の周辺を歩き、観察したり触れたりする
- 年少組「どうなったかな？」
 - ・拾ってきたものの状態を見たり、触れたり、遊びに取り入れたりする

< 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

11月15日（金）

○出発前

- ・教師は雨上がりの葉や空は何色かを想像する時間をつくり、いろいろな発見をしてくことを伝え、幼児の意欲を高める。

○園庭に水たまりがある

- ・長靴で次々に水たまりに入る。ジャンプをしたり走ったり、ぬかるみをゆっくり歩いたりする。「わー」「うごけない」「みて、こんなになった」「もっと泥にしちゃおうよ」「どろってどうして抜けないものなんだろう。朝になると乾いているね。」と言う

○水滴のついた葉

- ・教師が指にのせて子供たちに見せる。ぬれている葉とそうでない葉を見つけたり、水滴を叩いて落としたりする。幼児がたくさんの水滴を手の甲に載せ始めると、「いっぱいキャッチしてる」「どうやってキャッチするの？」と友達の様子を見て真似をし始める。

○苔のついた木の幹

- ・「みどり？きみどり？」とさまざまな色を発見する。

○落ち葉（モミジバフウなど）

- ・「きいろとあか」「あか」「茶色」と発見する。モミジバフウを拾い「うしろがしろ。あか、しろだ。」と発見する。葉脈だけ残った葉を見つけてくる子もいた。花束のように束ねる子もいた。
- ・ナメクジを発見する。「カタツムリかな？」葉にのせる。ミミズも発見する。葉にのせる
- ・「おっこちてるはっぱ」「こんなでかいのはっぱ」「ポテチみたいなはっぱ」「（2枚持ってきて）2こ、おともだち」「（葉の模様）おかお、くち、め、おでこ」と発見していた。
- ・たわませても破れない葉を見つけ「こわれないはっぱ」、色の発見だけでなく、枯葉にも違いがあることに気が付いていた。

11月18日(月)

○拾ってきた葉っぱが乾いてパリパリになっていた。

- ・担任が画用紙に載せてみる。思い思いにのせてみる。特に法則性はない。
- ・拾ってきたものを園庭にもっていく。砂を入れたカップに刺したり、葉をくずしてパラパラとかけたりして何個もつくる。



5 . 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- ・ 幼児は、次々に落ち葉を拾っているようで、どこか特別感を感じて拾っているように見受けられた。
- ・ 教師は指に水滴をのせてみたが、幼児は手の甲で、たくさんの水滴をのせていたことが意外だった。
- ・ 今回、幼児の探求を生み出すため、幼児がびちゃびちゃと水たまりに入っていた際にいつもであれば制止をしていたが、事前に止めないことにした。また、子供の発見を受け止めることに注力し、大人の発見を伝えることを控えた。すると子供たちがものに対してじっくりと関わり、どんどんと発見をしていく姿が見られた。いかにいつも大人の声掛けが多かったことかと反省した。
- ・ 初めは落ち葉に気持ちが行かなかった幼児は、園長が落ち葉をつかって「こんにちは」と話しかけたことから、「(破れている葉) いたいよー」などとごっこ遊びになり、葉っぱ集めを楽しみ始めた。
- ・ 画用紙よりも額のほうが子供たちが興味をもって載せていた。